

# 西神ニュータウン研究会 会報

第207号 2020年12月

## ■秋の見学会（第207回例会）記録

- ・日 時 2020年10月31日（土）13:30～15:30
- ・場 所 西区押部谷町 神戸ワイナリー ・参加者 18名
- ・テーマ **神戸ワイナリーを楽しむ**
- ・出前トーク 「農業振興と神戸ワイン」  
 神戸市経済観光局農水産課 丹羽 雄亮 氏  
 神戸みのりの公社ワイン製造部 安居 俊和 氏
- ・ワイナリーツアー 神戸みのりの公社 安東 香織 氏



丹羽氏（左）と安居氏（右）



安東氏

## ■出前トーク

### ◇神戸市の農漁業について 丹羽雄亮氏

- ・神戸市は、北・西区に広がる豊かな農業地域と、瀬戸内海に面した恵まれた漁場を持っている。そのため、農業算出額は近畿 198 市町村の中でも3位を誇っており、部門別では、肉用牛は1位、野菜や乳牛は3位となっている。（平成30年）
- ・農家は、専業・兼業合わせて約 5,900 戸あり、5,100ha の農地を持ち、年間 162 億円の出荷をしている。農業人口は減少・高齢化の傾向にあり、いかに後継者を増やすかが課題となっている。
- ・明治 21 年に始まった、農業用水確保のための淡河川・山田川疎水事業から現在の東播用水第二期事業において、農業用水の安定供給が図られてきて、果樹用の農地が生まれてきた。
- ・当時、米作農業からの転換、観光農業化、園芸農業の安定化といった課題があり、当初は、生食用のブドウ栽培を検討したが、各地で生産されていることもあり、ワイン用ブドウの栽培⇒ワインの製造に向かった。
- ・日照時間や降雨量・気温等の気候や土壌がブドウ栽培に適していることや、神戸牛と相まったのワインの需要が見込まれたこと等があった。



### 神戸市の農漁業

(平成30年8月現在)

#### ①農業の概要

区域	農地面積 (ha)	農家戸数 (戸)	農家人口 (人)	農業出荷額 (億円)
北区	2,065	2,317	7,406	162
西区	2,983	3,411	11,870	
その他	60	190	520	
全市	5,108	5,918	19,796	

#### ②漁業の概要

区域	漁業人口 (人)	漁船数 (隻)	漁業生産額 (億円)
全市	248	352	29

## ◇神戸ワインについて 安居俊和氏

- ・神戸ワインは、1979年に試験栽培を開始し、1983年に醸造免許をとり、醸造を開始し、1984年には神戸ワイナリーを開園した。
- ・西日本では、1880年、稲美町の播州葡萄園が最初のワイン専用ブドウの栽培である。
- ・神戸は、日照時間が長く、また、ブドウ栽培に最も影響する降水量が少なく、ブドウの栽培には適している。
- ・ワイン用のブドウは、神戸ワイナリーでの自社畑(1.9ha)と、西区平野地区(19.7ha)及び北区大沢地区(20.5ha)の契約農家で栽培しており、100%国内産どころか、100%神戸産のブドウでワインを作っている。
- ・現在、両地区の5法人与契約している。
- ・従事者は40・50代が少なく、60代以上が多い。
- ・栽培方法は、垣根仕立て(Y字型)とし、短梢剪定をしている。
- ・品種は、白ワイン用にはリースリング・シャルドネ・シナノリースリングを、赤用にはメルロ・カベルネソーヴィニオン(右写真)を栽培。
- ・ワイン用のブドウは、実が小さく種がある。これは、旨みや色素が含まれる皮の面積が広く、種にはタンニン(ポリフェノール)、果汁に酸味を含み、様々な成分が凝縮されている。
- ・神戸ワインがおいしくなった理由
  - ①樹齢が40年を超え、品質のよいブドウが採れるようになってきた。
  - ②ブドウを選別し、小さなタンクで醸造している。
- ・2019年のG20大阪サミットでは、神戸ワインの2016年産ベネディクション・ルージュが乾杯酒に選ばれた。
- ・こだわっていること ①神戸のブドウ100%で、神戸で醸造。 ②手をかける。…よくないものを手で取り除く。 ③ものにこだわる。樽…2200
- ・課題 ①温暖化…合わなくなってきた品種もある。 ②樹齢…ブドウの樹齢は50年くらい。40年たった。 ③従事者の高齢化…後継者の育成
- ・そのほか、ブドウ栽培の1年、おいしい飲み方、保存方法等のお話がありました。2020年産のワインは、8月からの天候に恵まれ、5~6年に一度の良い出来だそうです。



## ■ワイナリーツアー 安東香織氏

- ・安東さんの案内で、ブドウ栽培・ワインの製造工程や手法について、紹介していただき、そのあとおいしい試飲を楽しみました。

### 【意見交換】

◇農家人口2万人弱に対し、出荷額162億円は少ないのではないかと。

※農家人口は、農業従事者数とするほうが正確といえる。農業従事者は11,390人だが、この中には年に1日以上従事した人がカウントされ、農業で生計を立てている人はもっと少なくなる。戸数単位では、平均273万円となる。50万円未満が多いが、700万円を超える農家も200戸以上存在している。農業経営の改善や後継者の育成は大きな課題で、支援等に取り組んでいます。(後日補足説明をいただきました。)

